

## 会 議 要 旨（意見要旨）

会議の名称	第9期 第7回新宿区男女共同参画推進会議
開催日時	令和4年6月17日（金）午後3時～5時
開催場所	ウィズ新宿 3階
議長（会長） 氏名	早稲田大学文学学術院 教授 村田晶子委員
出席者（委員） 氏名（人数） 敬略称、順不同	清泉女子大学文学部地域市民学科教授 安齋 徹委員 公募区民 柳田 愛美委員 公募区民 吉岡 富美子委員 株式会社ホテル小田急 山口 雅雄委員 町会連合会 山田 和男委員 公共施設利用団体 宮崎 冴子委員 区立小学校校長会 長井 満敏委員 区立中学校校長会 郡 吉範委員 計9名
欠席者（委員） 氏名（人数）	神奈川大学法学部教授 井上匡子委員 公募区民 小野 栄子委員 株式会社チェックメイト 藤沢 薫委員 民生委員・児童委員協議会 久田 光子委員 青少年育成委員会 太田 幸一委員 区立小学校PTA連合会 平田 知子委員 計6名
事務局の出席者	生田 淳（子ども家庭部長）、渡辺 隆介（男女共同参画課長） 谷崎（男女共同参画主査）鈴江、三澤 株式会社 創建 内田、砂田

発言者	内容
次第 1 開会	
次第 2 議題	① 男女共同参画に関する区民及び企業等への意識・実態調査について
事務局	《 資料 1-1「調査についてのご意見と対応」に基づいて説明 》
委員	<p>・項番 8 共働き世帯が増えているのに依然として「家事・育児は女性」に偏っているので、女性の二重負担（仕事と家事育児）についての意識を把握したいと考えたが、この新性別役割分業（男は仕事、女は仕事と家事育児）についてはどう把握するのか。</p> <p>・項番 11 男性女性ともに聞くと、正直な回答が得られなくなるおそれがあるとの説明だが、もう少し詳しく説明を。</p> <p>・項番 12 区民調査で聞くこととしているとのことだが、ワーク・ライフ・バランスに関する調査なので、どういう職場の人が家事・育児時間を長く取れているかを把握したほうがいいのか</p>
事務局	<p>・項番 8 考えられるとすると選択肢を増やすことになる。皆で議論をお願いしたい。</p> <p>・項番 11 女性従業員についても問うとした場合、男性または女性、一方のみの認識であったとしても、その通り答えることが期待できないと思われる。正確な回答を得るためにこのような対応とした。</p> <p>・項番 12 調査項目をなるべく増やさないというのもあるが、区民調査で把握すればいいとの考えである。</p>
委員	<p>専業主婦を連想するような「男は仕事、女は家庭」には反対するが、家事等は女性が担うものと思っている人はまだまだ多数いる、という論文もある。このため新性別役割分業についての把握が必要と考えた。</p>
委員	<p>女性が働くことは当たり前だが、家事・育児は女性が担わなければいけないから、という問いの答えが必要か。</p>
委員	<p>設問を設けられるならそのほうがよい。</p>
事務局	<p>もし新規の設問として設けるならどのような設問がいいか。</p>
委員	<p>新規で「男は仕事、女は仕事と家庭、という考え方についてあなたは思うか」という設問を設け、賛成か反対かを聞くのはどうか。</p>
委員	<p>女性の社会進出は進んだか、男性の家事育児は進んだか、と率直に聞くのはどうか。</p>
委員	<p>既に問 8 で「男性が家事や育児等により積極的に参加していくために必要なこと」を聞いている。また、問 18 の選択肢 7 で「男性も家事・育児・介護を分</p>

	担すること」とある。前提として男性の家事育児参加が進んでいないのが問題として認識しているように見える。
委員	仮に選択肢として「家事育児は主に女性が担うものだが、女性が働くことは当たりまえだと思うから」があると迷うと思う。前半部分はそう思うが、後半部分はそう思わない場合、答えようがない。まずこの調査の最初に回答者の性別を聞いている。そして問4の設問で、誰が家事育児を担っているかを聞いているので、実態は明らかになると思う。経年で聞いているのであれば変化も追うことができるのでは。
委員	問10の選択肢7でも聞いている。
委員	実態であれば問12でも把握できる。
委員	行動の実態のみではなく、意識の実態を把握できればいいなと思っている。他で行っている調査でも新性別役割分業の設問が見られないものが多い。
委員	新しい設問を設けたとして、「女は仕事と家庭」という問いが一般的な意識を引き出す表現になっているとの考えか。
委員	かつて、別の調査で見たことはある。正直な回答は得られていたと思う。世間において新性別役割分業についてあまり議論はされていないが、行動の実態でいうと広く見られるのではないか。
委員	さまざまな意見が出たが、新規で設問を設けたとして、長期的に見ていく新しい問いとなるとよく考える必要があると思うが、タイムスケジュール的に間に合うのか
事務局	新しい設問を加えるのであれば、一語一句今決めなければならないというわけではない。方向性を決めていただき、あとは区に任せてもらえるのであれば可能である。
委員	では、新しい設問を設ける形で進めていく。文言についてはもう一度提案を。
委員	「共働きであっても家事育児を担うのは女性と思うか」の文言で、賛成か反対かを問う形ではどうか。
委員	この問いを何に生かすのか疑問。
委員	ジェンダー平等の背景として、どういったところに問題があるのかを明らかにする必要があると思う。
委員	研究としては必要だが、区の政策のための調査で必要なのかは議論するところではあると思う。項番11、12についてはどうなのか
委員	その2つについては説明を受けたのでそれでよい。
委員	中学生の調査において、性の多様性について問8、9だけだと第三者の意見のみで当事者は入っていない。LGBに関しては何も聞いていない。中学生で悩んでいるのは圧倒的にLGBが多いので、何か聞きたいなと思う。性的指向について聞けないものか。
事務局	資料1-1 項番5で説明したとおり、なかなか難しいと認識している。
委員	課題として検討をお願いしたい。

委員	今ネットで調べてみたが、浦安市や磐田市・浜松市で「新性別役割分業」の文言が登場しているので、市町村でも調査を行っているところはある。サッと探ただけだが、このくらいの自治体しか調査していない。新宿区でも調査するかは、また判断が必要だと思う。
委員	ひとつの案だが、問5の2として「どのくらい家事・育児等に時間を使うべきだと思いますか」という設問を加え、実態と理想に差がある場合は「なぜ差があるのか」の理由について自由記述の問を設定するはどうか。実態と理想の差の把握が可能になると思う。
事務局	安齋委員のご発言をもとに浦安市を調べたので紹介する。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との問いに、「そう思う」「そう思わない」「わからない」との選択肢になっている。次に、「女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護もきちんとすべきである」との問いに、「そう思う」「そう思わない」「わからない」との選択肢になっている。割と分かりやすい設問だと感じた。
委員	確かに、「新性別役割分業」「仕事と家事」というよりは問いの意図が分かりやすい。二重負担がかかっていることをどう思うかを問うとともに、問題提起の設問にもなっている。
委員	可能であれば、先行して調査しているところもあるので、新たに設問を入れてほしい。今回難しければ、また次の調査時に検討をお願いしたい。最終的な判断は区にお任せする。
事務局	仮に入れるとするなら浦安市のような問でいいか。よければ、あとは入れる入れないの検討をして判断をする。
閉会	